

# Weekly report

MINKABU  
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド  
東京都千代田区九段北1-8-10

## 今週の注目材料 = 年内最後の日銀会合は、現状維持へ

2022年12月19日

19日、20日に年内最後となる日銀金融政策決定会合が開催されます。金融政策は現状維持が見込まれています。

円安やエネルギー価格の上昇などを受けて、原材料・コスト高を背景とした値上げが相次いでおり、先月発表された10月の消費者物価指数(CPI)は生産食料品を除くコアで前年比+3.6%まで上昇。23日に発表される11月のCPIは+3.7%とさらに上昇見込みです。12月のCPIでは4%に乗る可能性が指摘されています。

12月(第4四半期)の日銀短観では、大企業非製造業の業況判断DIがコロナ前2019年12月以来の高水準である+19まで上昇するなど、企業の状況も改善傾向が見られ、来年の春闘での大幅な賃上げ見通しについて、経団連会長が驚きはないと発言するなど、賃上げの実現に向けた動きも期待されています。こうした状況は物価高継続への期待感につながっています。

14日には、日銀の政策検証がらみで円買いが入る場面が見られました。複数関係者からの情報として、来年4月8日で任期満了を迎える黒田総裁の次の体制下で金融政策の点検・検証が行われるとの報道がきっかけになりました。黒田総裁はこれまでも繰り返して発言してきたように緩和政策の維持を任期中続ける見込みが高いですが、物価高の実現と物価高が継続する可能性への警戒から、市場で緩和姿勢後退への期待がくすぶっており、こうした報道を受けた円買いにつながった形です。

今回の会合で何らかの大きな変化が出る可能性が小さいという印象ですが、海外勢を中心に緩和後退への期待は根強く残っています。

2015年から政策金利を-0.75%とし、日本よりも厳しいマイナス金利政策を長く続けてきたスイスが、今年の6月に15年ぶりの利上げに踏み切り、今月15日に3会合連続での利上げで+1.0%まで金利を引き上げたことや、パンデミック中ゼロ金利を維持していたスウェーデン国立銀行(中央銀行・リスクバンク)が今年6月に利上げに踏み切り、9月に予想外の1.0%利上げに踏み切るという積極利上げを続けて、2.5%まで金利を引き上げていることなども、日銀への主に海外勢からの引き締め期待につながっていると見られます。

日本勢は現状維持で見通しがほぼ一致しているものの、海外勢の期待感などから発表前に円高が進む可能性が結構あります。

日本以外では20日に中国、22日にトルコの政策金利が発表されます。

日本同様に緩和姿勢を示している中国。政策金利の一つである最優遇貸出金利(ローンプライムレート：LPR)は、1年物3.65%、5年物4.3%共に現状維持が見込まれています。15日に発表された中期貸出制度(MLF)1年物金利も据え置かれており、波乱要素は少ないと見られます。8月に引き下げられたMLFとLPRは、その後据え置きが続いています。ただ、ゼロコロナ政策によるコロナ対策の緩和を進めている中国当局は、緩和姿勢を維持しており、来年はさらに下げられる可能性があります。

こうした中国当局の緩和姿勢維持は、中国人民元相場だけでなく、対中輸出の大きい

豪州、NZ、南アといった資源国通貨にも影響を与えますので、今後の中国の姿勢に要注意です。

8月の会合から前回11月の会合まで4会合連続で利下げを実施し、政策金利を14%から9%としたトルコ中央銀行は、前回の会合で緩和サイクルの停止を決定しています。そのため、今回は据え置きが見込まれています。10月分の消費者物価指数が24年ぶり高水準となる前年比+85.51%まで上昇したトルコですが、5日に発表された11月分は+84.39%とわずかながら鈍化しています。経済成長の鈍化とベース効果によって、12月分からはインフレ率が低下するとの期待もあり、いったんは据え置きが続くと期待されています。来年5月もしくは6月に行われる大統領選挙までは現状維持見込みとなりそうです。

#### 山岡和雅 | MINKABU PRESS編集部

1992年チェースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後にGCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

---

#### <免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

#### <著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。